

私たちは大齋節を迎えている。私たちに奨励される行いの一つは、断食をするか、願望している何かを断念する事である。本日の福音書は願望で満ちている。願望という言葉は、この節の中で出てくる度に異なって訳されている。ギリシャ語の語源が(聖書で)復唱される事はほとんどないが、本日の福音書は願望で満ちている。ヘロデ王はイエスを殺す願望を持っている。イエスは、めんどりがすべてのひなを翼の下にかばうように、神のすべての子を集める願望を持っておられる。その一方、神の子供達はその保護の下に集められたくないと願望している。

私の娘が幼い子供の頃、全くこのことをした。娘はすべての手伝いを拒み、何の助けがなくてもやっていけると主張した。できたであろう。それが何であったとしても。自分は有能であり、強いと証明する願望があった。

その結果、娘が不快な何かを持って生きてきたことを知っていつも驚かされた。例えば新しい靴を買いに行った。そして発見したことがあった。娘が新しい靴に紙の束(靴の爪先に紙が詰まっているのが知られている)を詰めたまま何ヶ月も歩いていた。紙の束はまだそこにあった。娘は靴を履くのを手伝わさせなかったので、私たちは何ヶ月も見つけることができなかった。小さな足は、爪先の紙の詰め物で押しつぶされていた。

娘のハナ(Hannah)は今でもこの話をすると笑う。しかし彼女は靴のことを記憶している。彼女はその不快なことを記憶している。彼女は紙の束を知らなかったと回想している。靴はそのように感じる物だと思っていた。ハナの周りの靴を履いている人の中に、文句を言う人は誰もいなかった。ハナが、助け、ケア、保護を求めるまで、苦しんでいた。彼女の願望は、自分自身の自立を証明する事であった。彼女は自分の世界を管理する力(権力)を願望していた。

イエスはめんどりのように、<sup>ひな</sup>雛を集めて翼の下に保護と快適さを与える事を望まれている。しかし雛のように、神の子供たちは独立する願望がある。従って神の子は神を拒否し、離れて行く。

しかしここに重要な差異がある。ケア(世話)と保護を受ける事は、知的である事、有能である事、強靱である事とは正反対ではない。両方を望むことは可能である。

今、実際にハナはスマートで、自信があり、有能であるが、いつも助けを求めている。ハナはただ自分のことを覚えてもらうために、私の電話を求めている。援助、保護、ケアの願望は今は脅威とは感じていない。彼女は自立し、自主管理している。

幼児が手助けを押しやるイメージはほほ笑みになる。幼子が、自分の世界を管理する力を要求するのは、ほほ笑みである。しかし大人の私たちはどうであろう？ 個人の権力と支配に傾倒する大人の姿に加えて、彼らはすべての手助けと愛を拒否する。現在はどうなのか？ 管理すべきであった考える、あるいは考えない時は、どうなのか？ 私たちは強靱で有能であるのだが、体の病気や心の健康、あるいは人生の大惨事で弱くなっている時は（手助けと愛の受け入れは）どうなのか？ 私たちは何を願望するのか？

私が今のハナより一歳年上であった20代の頃、私は病に冒された。何年にも及んだ。それは丁度、私がやっと自立する頃であった。他の人々のケアと保護に完全に頼っていた。私はそれが大嫌いであった。病気であることが大嫌いであった。病気での破滅を願望した。その願望の下で私が本当に求めていたのは、私の人生における自分の権力と管理であった。

ある日、私は散歩をしていた。まだキリスト者でなく、どのように祈るかを知らなかった。私がいま祈りと呼べるすべての事をしてみた。言葉を出さずに、心の底から嘆いた。言葉を出さずに、私は終わったと叫んだ。これ以上、続ける事はできない。死を願った。

その時は私は集められたと感じた。めんどりのような聖霊が、壊れた私を受け入れた。聖霊は私を保護とケアの下に集めた。その前までは、死を願望したと述べたであろう。しかし注意深く見るなら、私は自分の体と人生をコントロールする願望があった。その後は、神のケアと保護の下に集められることに足りると知った。その後は、生き続ける事ができた。癒されるまで何年もかかった。強くなり、力を発揮できるまでに何年もかかった—そのすべてを通して、神の保護を感じた。それはめんどりの翼が私の周りを<sup>かば</sup>うような感じであった。

何年もの間、ケアと保護を受け入れる訓練をした。それと同時に、私は強くなり力を発揮できるための努力をした。有能で強靱になるための願望を持つ事は可能であるからだ。それはまた、ケアと保護を願望し、受け入れる事でもある。もし私たちが本当に望むなら、本当に願望するなら、一つの矛盾がある。それは権力である。なぜなら神のみが、すべての権力を持っておられるからだ。

あなたがたにはどんな願望があるのだろうか？

今日の福音書の節を読むと、誰もが何か異なった願望を持っていると教えている。

ヘロデ王は死と破壊を願望している。願望の<sup>もと</sup>下を見ると、ヘロデの願望は権力であるのがたやすく分かる。ヘロデは強力な地位（王位）を維持する願望がある。

それはヘロデの周りの人々を支配できる地位（王位）である。

イエスはケアと保護を与える願望を持っておられる。

イエスは共同社会に、私たちが共に集めようと願望されている。

めんどりの翼の下で、安心と暖かさに包まれているのを想像してみよう。

イエスは私たちが、そのケアを感じることを望まれている。

この物語の次にあるのは、神の子供たちが独立を願望している事である。

幼子のような神の子供たちが叫ぶ。「いいの、私は自分でできるの」。

幼子のような神の子供たちは、保護とケアを拒否し、神不在で生きようとする。

しかし保護とケアを受けられることは可能であり、有能で強くなれる。

すべての願望が権力なら、神からのケアと保護を受け入れる事は不可能である、

あなたがたにはどんな願望があるのだろうか？

これらの邪悪な願望はどうであるのか？ 私たちの権力への願望はどうであるのか？

私たちの日常で読んだり見たりするニュースを支配するための小さな権力がある。

政治指導者たちは、人々からその権力を取り上げる。（\*報道規制）

私たちの日常に関連すると、私たち自信で歩む能力、自信で養う能力への願望がある。

世界の多くの人々が、現在でも自分の人生を歩んだり、自分を養うための管理ができないことに、私は気付くのだ。人生の異なる時代に、一度で簡単にできることが、病気や暴力のために取り去られてしまうのだ。

この世界でどれほどの死と破壊がなされているか、権力は共通の願望である。

私はウクライナの戦争を考えている。世界のすべての暴力犯罪を考えている。

特に私の心は、家庭内暴力、自傷行為、自殺など、これらすべての衝撃で一杯である。

先祖のヘロデ王のように、人間は死と破壊の願望で満ちている。

あなたのある願望が邪悪であるなら、それはあなただけではない。

あなたのある願望が権力であるなら、それはあなただけではない。

イエスは私たちのすべての願望を知っておられる。

聖霊はめんどりのように、私たちが神のケアと保護のもとに集めるのを望んでいる。

この節は願望についてである。ある願望は両立でき、あるものはできないと気が付く。この節で権力の願望と、神のケアと保護を受け入れるのは不可能であると再び教えている。この節にヒントがある。それは神のケアと保護をいつも受け入れることができなくとも、そのケアと保護はいまだ私たちのために備えられている。幼子が助けを求めなければ、その苦しみを取り除くことができない両親のようでもある。

この節は大齋節の主題に適っている。聖なる大齋節への勧めの一つは、断食である。多くのキリスト者は大齋節に何かを断つ。チョコレートやアルコールを断つ。ソーシャルメディアや食肉を断つ。常にこれはトークン（代用貨幣、特に交通機関で使用）であり、私たちの願望が何であるかを知らせるジェスチャーである。私たちがいつ、どんな願望を見失っているかを教えるジェスチャーである。神のケアと保護だけで足りると教えるジェスチャーかもしれない。

（文責長澤猛）